

NISSHA 株式会社
「第 107 期定時株主総会」

質疑応答の概要
(2026 年 3 月 24 日開催)

1. 事前質問へのご回答

Q1.	株価向上に向けた具体的な取り組みを教えてください
A1.	当社は、株価改善に向けて最も重要なのは収益性の向上であると認識しています。特に、営業利益率の伸び悩みが市場評価に影響していると分析しており、収益性の改善に向けて、事業ポートフォリオの組み換えを通じ、注力分野への投資拡大と低採算事業の見直し・撤退を進めています。あわせて、業績が変動しやすい局面においても安定配当を基本方針として継続し、株主還元の充実にも努めてまいります。
Q2.	会社の知名度向上に向けた施策を教えてください
A2.	当社は、知名度の向上を営業面および人材採用面の双方で重要な課題と認識しています。BtoB 企業という事業特性上、一般認知が広がりにくいことから、近年はプロスポーツチームへの協賛や大学周辺での広告掲出などに取り組んでいます。採用面では、こうした取り組みをきっかけとした応募事例も見られており、今後も知名度の向上に継続して取り組んでまいります。

2. 株主総会当日の質問へのご回答

Q1.	社長の在任期間が長い理由と、ガバナンス上の考え方を教えてください
A1.	当社は現在、事業ポートフォリオの組み換えという中長期で遂行すべき経営課題に取り組んでいます。現経営体制は、この取り組みを完遂するために必要と判断されたものであり、その期待のもとで経営を担っています。また、独立性を担保した社外取締役との対話・協働のもとで、経営の規律は確保されていると認識しています。

Q2.	親会社単体の収益や財務の状況を踏まえ、連結経営における本社とグループ会社の役割やバランスをどのように考えているか
A2.	当社グループは連結経営を基本としており、本社は主として開発機能および管理機能を担っています。一方で、売上高の約 9 割が海外である事業構造の中で、本社にコストが偏りやすい点は課題として認識しています。今後は、本社機能のあり方やグループ会社との役割分担を見直し、収益や機能のバランスも踏まえながら、グループ全体で最適な体制の構築を進めてまいります。
Q3.	多角化した事業構成は、株式市場からの評価に影響していないか
A3.	当社は、分散した事業構成が、直ちに株式市場からの評価を下げる要因になるとは考えていません。選択と規律ある分散の考え方のもと、事業ポートフォリオの強化を進めています。さまざまな事業の寄せ集めではなく、各事業は共通する技術やケイパビリティを基盤としており、対象市場や用途に合わせて事業を展開しています。そのうえで、見込みのある分野への投資を強める一方、パフォーマンスが低い事業の見直しを進めることで、事業ポートフォリオによりメリハリをつけていきます。
Q4.	株主優待を含む株主還元について、今後どのように考えているか
A4.	株主優待については、株主のみなさまから一定の評価をいただいているカレンダーを継続する方針です。一方、株主還元においては、安定配当の継続や自己株式取得を含む金銭的な還元も重要であると考えています。今後も、株主価値の向上を目指しつつ、成長投資とのバランスを踏まえながら、株主還元策を検討してまいります。
Q5.	業績や利益が伸び悩んでいる主な要因と、今後の改善策を教えてください
A5.	当社は BtoB 企業であり、取引先企業の販売動向の影響を受けやすい事業特性があります。そのため、将来性のある市場やお客さまへ軸足を移すべく、事業ポートフォリオの組み換えを進めています。今後も、成長分野へのシフトと収益性の改善を通じて、業績の向上につなげてまいります。

以上